

磐城時報

石城郡平町 電話 〇四
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社
印刷 磐城時報社

第三校道路問題 第二案に逆戻り

僅か一名の差で 第一案一蹴さる

平町第三小學校道路問題の繼續
町會は十日午前十一時から開催
荒川恒次郎氏欠席野崎満藏
氏が前回の町會に於て二讀會を
通過した第三小學校道路敷地の
所謂第一案(西部)に對し第三案
(中央)を支持し之に關する議案
豫算の修正動議を提出したるに
對し秋原義雄、井上茂作等は歳
出は既に二讀會を経て議論が盡
きてゐる等であるから審議の余
地はないと主張すれば青沼録太
郎氏は第二讀會は審議に止まる
もので決定ではないと老翁なる
言辭を弄して野崎氏に應援し結
局二讀會を経て第一案を否決し
第三案に變更する案が議題とな
つたので無記名投票で採決の結
果

青沼と大森に口説かれ 花澤議員變節す

第一案の破れた理由 花澤氏の人格批難さる

第三小學校道路問題は前町會議
員無期中に生じた問題で昭和三
年六月二十九日の土木委員會で
第一案に決定され、更に新町會
議員の土木委員會でも本年五月
三十日第一案を適當であるとし
て決定したもので、當然その實
現を見る可き等であつたのに、
現を見る可き等であつたのに、
その後町會議員中一、二名の者
が或る種の目的から策動を開始
し所謂第二案を計劃したが之は
町會議員並に町民多数が計劃者
の野望を破破したためか賛成者
が割合に少なかつたが町會に於
ては過般調査委員として
花澤五六、根本品藏、永山
富廣、佐藤岩次郎、石山治三
郎、荒川恒次郎、鈴木光吉
の七名を以て之に調査を一任し
委員は約七日間調査を遂げた結
果

第三案による道路は 實現の可能性なし

先づ土地買収が困難

町會に於て第三校道路は第三案
と決定し町會に於て調査を開
始する事になつたが、第三案に
よる豫算は第一案の六千六百圓
に比して工事費に於て七百三
十一圓だけ多く又、第一案に對
しては佐藤榮吉氏が一千圓を寄
附する事になつてゐるが第三案
に對しては村上某が二百圓を寄
附するに過ぎないから町負擔の
費用に於て二千三百三十一圓の開
きがあり、又第三案の敷地は菊
地民造氏の私有工場の中央を貫
通するので菊地氏は絶対に土地
は賣れぬといふ書面を町當局に
提出してあるからこの土地を使
用するにすれば土地収用法によ
る外なく結局第三案による道路
計劃は第一案を棄つたけれども
實現の可能性極めて乏しいと察
せられる。

石炭の運賃値下に關し 小泉湯本町長起つ

先づ町村長會を説き 目的貫徹の運動

石城郡湯本町長小泉三代喜氏は
常磐各炭礦の鐵道運賃値下げに
ついて運動を開始する事となり
先づ来る十八日開かる、石城郡
町村長會に左の如き意見書を提
出して町村長會の問題とし目的
貫徹を期する事になつた。

入營兵送別會

平町
入營兵の送別會は十八日午前十
一時縣社子鐵倉神社社頭で行ふ
郡夏井村消防組願矢吹野氏は辭
職し後任に高木泰造氏が任命さ
れた結果であらうといふ詳細な
である。

消防幹部交代

石城
郡夏井村消防組願矢吹野氏は辭
職し後任に高木泰造氏が任命さ
れた結果であらうといふ詳細な
である。

平商業學校遠足

平商業學校では十一日午前九時
から内郷村方面に遠足運動を行
つた。

考婆殺し公判

石城
郡錦村の助川アキ(八三)を殺殺
した助川秋雄(十七)假名の公判
は十一日開廷の筈であつたが二
十日に延期された。

兩親を捨てる

平町
田町三六番地青森縣三戸郡尻田
村驛前辨當郡旅館山金藏(三
四)は一昨年四月實父君友(七
四)と實母イ(六八)を振捨て
無断家出したもので其後兩親
は身体不自由なばかりでなく財
産がないため食ふに困る有様で
あるが金藏は石城地方に來たら
しいので平署に説諭方を願ひ出
した。

懲役三年

桑原庸夫は
平郵便局の切手、収入印紙等一
萬五千圓を横領し遊興に費消
した元同局書記桑原庸夫(三八)
は去る四日平支部で公判開廷の
結果桑原氏は懲役三年を求刑
したが十一日午前十時情狀酌量
の余地なしとして求刑通り懲役
三年を言渡された。

飯専門の賊

當時住
所不定無職南會津郡伊北村生れ
前科三犯目黒平三郎(三三)は十
一日午前二時頃内郷村大字宮只
野清方臺所に忍び込み飯を食つ
た後雨が降り出したので傘一本
を窃取し逃走したのを密行中の
巡查に逮捕された、平三郎は去
月十九日福島刑務所を出所した
ばかりで此の程平署の非常召集
の際同村大字宮野飯場で飯を
盗み検査され九日放免されたば
かりの男である。

石炭は更に京濱より汽車積
として甲信、兩毛方面にまで
送出されても僅に常磐炭と競
争し得る實狀にして、漸時販
路の縮少せる常磐炭礦は今後
この状態を繼續するに於ては
遂に立行かざるに到るべきや
明かなり。

▲平町俳句大會 東京日々新聞の百景俳句募集に刺戟され濱通り地方の俳句熱はいつきり高まつて来たが平町の萍生潮聲、高月會、好問十好會、川前雪調會等聯合主催のもとに秋季俳句大會を來る十六日正午から平町四丁目柴田マルトモホールで開催仙臺市より衛成病院院長龜井初九氏も出席の筈である。

科。料。一。束。 ▲平町字一丁目運轉手坪内清(三三)は定員五人乗の自動車に九人を乗せ ▲平町材木町渡邊茂助(四四)は無燈火自轉車に乗り一團 ▲平町研町長谷川正茂方關傳助(九九)は自轉車に二人乗つて一團。

局長さんへ

准教員生 口私は小學校の准教員として三十五圓を戴いて奉職してゐる者です。 口緊縮の今日私は毎月多少なりとも蓄へて不時に備へたいと思つてをります。それが出来ないので。 口一月廿圓位は容易に蓄へられるのであります。貯金すべき日がないのです。局が近くにありながら誠にも都合な余を離れてゐるのです。 口たまの日曜と思へば局も休み、祭日は勿論休みだし放課後と思へば矢張學校を退けて局へ行くまでに終つてしまひます。その機を何時も逃がしてしまはねばなりません。 口人頼みもよいですが不安心です。中を見られては結局長さんやなごで。 口局仕方がよく、口におくんで。 口は使ひ勝ちて不用の物を買集めたり知らぬ間に月末までに貯へ得るべき可能性の金もつ

まらぬい處へ使ひ込んでしまひます。 口私達の學校でよまひ言する先生が可成りありませうが他の月給生活者の方にも不便を感じてゐる方があること、察します。 口私は局長の方に是非月給日廿一日の後すぐの日曜だけを休日として私達の利便のためにせうか、出来ることならば誠に幸ひだと思ひます。

腸胃 専門 村松 内科 十二指腸 腸胃病 婦人病 皮膚病 院醫科 (七〇一話電)

鼻の薬「チクノール」 平五 山野邊藥局

佛國マルソー會社元詰 生葡萄酒 1.10 西村屋藥局

二葉印刷所 平町仲町・電話一九三番

首より上の化粧品と器具 化粧店用バリカンミ剃刀 安全の及ミ器械及び皮砥 白衣と鏡取揃えてあります 經濟のクリム・ポマード ハカリ賣 フケ取香水・純椿油 芳香園理髮器具店 電話六八〇番

家庭圓滿御健康の秘訣 家庭圓滿は御臺所の經濟から!!! 美味で安價で滋養と言へば何時でも豆で丈夫な 折日の出納豆を召せ 御電話があれば一個でも配達致します 一個八錢 佐藤善次郎商店 電話三七四番

義太夫大溫習會 竹本錦祥丈に御奇贈之 張御披露を兼 秋 義太夫大溫習會 日期十一月十二日二日間雨天に不拘す開場 時間は... 毎夜六時より 主催若葉會 入場料は一切申受ません 劇場聚樂館

和洋銅鐵金物問屋 釜屋商店 諸橋久太郎 電話九九番

外科 一般外科 内臟外科 性病科 X光線科 入院隨意(自炊の便あり) 元赤心堂病院跡 安齊外科醫院 電話四七五

平新川町十九 木村病院 電話一六四 産科 院長 木村寅次郎 婦人科 女醫 木村コウ 内臟外科 醫學士 松永憲一 整形外科 醫學士 萩原駿二 藥局 東京藥學士 萩原駿二

溫灸 胃腸病 肺病、肥り度い人婦人病 冷え症、慢性諸病に特効 醫學博士廿名推獎 特許ラチウム温灸器 說明書進呈 定價大十三圓 特小一圓 治療部 福島縣平町白銀町九 關口悦子

耳鼻咽喉科 應入院 合津醫院 電話五五九番

債券、公債 兩替金融 多田井質店 平町大工町(電話五九一番)